

国語科学習指導案

「すてきなことばを見つけ、みんなにつたえよう」

(小学校 第1学年)

神奈川県立総合教育センター



【『「現在求められている教育」を関連させた学習指導』平成22年3月】

研究成果物冊子『「現在求められている教育」を関連させた学習指導』の6ページに記載されている「指導計画作成モデル」に基づいて、「情報教育」と「読解力向上に関する教育」を関連させた単元の指導計画を作成し、小学校第1学年国語科で実施した学習指導案です。

1 学年 小学校 第 1 学年

2 教科名 国語

3 教科目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

4 単元名 「すてきなことばを見つけ、みんなにつたえよう」

5 単元目標

身の回りの事象の中で諸感覚を使って感じたこと(見る・聞く・においをかぐ・手や足で触れる・味わう・体全体で感じる等)や考えたことを言葉で表し相手に伝える活動を通して、豊かな表現力を身に付ける。

6 児童・生徒の現状から判断したこの単元で「主に付けたい力」

児童は、自分が感じたことや考えたことを相手に伝えるときに文章ではなく単語で発するため、「何がどうなったのか」「誰がどう思ったのか」など、詳しいことが相手に伝わらないことが多い。そのため困っている様子をよく見掛けるので、自己表現する力を付けさせたいと考えた。

教科書や自然事象等から児童自身が「すてきだと思ふ言葉」を探させ、その情報を基に考えさせる活動を通して、情報を取り出す力や思考する力・判断する力、自己表現する力の育成を目指す。

7 関連させる教育

情報教育

自然事象の中から、自分が相手に伝えたいことを見付けさせ、それについて感じたことや考えたことを表現させる活動を通して、情報を取り出す力や自己表現する力の育成を目指す。

読解力向上に関する教育

教科書だけではなく、自然事象等からも情報を取り出させ、情報を基に感じたことや考えたことを表現させる活動を通して、情報を取り出す力、思考する力・判断する力、自己表現する力の育成を目指す。

8 単元の指導計画

(1) 単元の時間数 7 時間扱い

（ 2 ）単元の評価規準表

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	言葉についての 知識・理解・技能
物語や詩を読んで、自分の思いや感じたことを相手に伝えるために、いろいろな言葉による表現を進んで行おうとする。身の回りの自然事象の中から感じ取った自分の思いや感じたことを言葉で表そうとしている。	気に入った言葉やその言葉を選んだ理由を相手に伝わりやすい言葉で伝えている。身の回りのことから話題を決め、自分が感じたことを相手に伝わりやすい言葉で伝えている。どんな言葉を使えば相手に伝わりやすいかに気を付けて聞いている。	自分が気に入った言葉や表現等を見付け出し、その理由を書いている。自分が相手に伝えたいと思ったことを自分の言葉で表し、書いている。自分が感じたことを相手に伝えるために、言葉に気を付けて作品を作っている。	物語や詩の中から自分が気に入った言葉やまねしてみたい言葉を見付け出すことができる。

（ 3 ）単元の指導計画 太字で下線が引いてあるものは本単元で「主に付けたい力」

時間	学習内容	「付けたい力」 (教師の指導内容)	児童の学習活動	指導上の留意点	評価規準			
					関	話	書	知
1 2 3	「すてきなことば」を見付けよう	情報を取り出す力 (物語や詩の中から、気に入った言葉の表現等を見付け出させる。) 自己表現する力 (見付け出した言葉と理由について発表させる。)	<ul style="list-style-type: none"> 物語や詩を読んで、その中から素敵だと思う言葉を見付ける。 見付け出した言葉とその言葉を気に入った理由について発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 過去に学習した内容で、児童の関心の高かった教材を資料として提示する。 児童が素敵だと思う言葉を見つけ出す時間を十分確保し、選んだ理由についても書かせる。 				
4 5 6	感じたことを言葉で表わそう	情報を取り出す力 (自然事象の中から、自分が相手に伝えたいことを見付け出させる。) 思考する力・判断する力 (どんな言葉を使えばより相手に伝わるかを考えさせる。)	<ul style="list-style-type: none"> 自分が直接見たことや聞いたこと、においをかいだこと、味わったことなどの中で、相手に伝えたいことを見付け出す。 どんな言葉を使えば相手に伝わりやすいかを考えながら、言葉に表す。 	<ul style="list-style-type: none"> 諸感覚を使って、相手に伝えたいことを見付け出させる。 どんな言葉や表現方法を選ぶと、自分の思いが相手に伝わりやすいかを考えさせる。 				
7	感じたことをみんな(クラスの人たち)に伝えよう	自己表現する力 (自分の見付けた言葉の作品を発表させる。) 聞く力 (ほかの人の言葉のよさや感じ方のよさに気付かせる。)	<ul style="list-style-type: none"> できあがった言葉の作品をみんなに発表する。 ほかの人の発表を聞き、どんな言葉を使えば相手に伝わりやすいかに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手に伝わりやすい言葉や表現方法について、ほかの人の発表から気付いたことを記録させ、授業の最後に確認する。 				

丸数字は単元の評価規準表に対応、太枠内の 4 時間目が本時の学習

9 本時の学習（単元の4時間目）

（1）本時の目標

対象物（ひょうたん）について、自分が直接見たこと、触れたことなど諸感覚を通して感じたことを相手に分かりやすいように伝える言葉や表現方法を考えながら言葉に表す。

（2）準備物

ひょうたん、ワークシート、ワークシート

（3）本時の展開

過程	付けたい力 (教師のねらい)	学習活動の流れ	指導上の留意点	評価規準 [評価方法]
導入	情報を 取り出す力 (自然事象の中から、自分が相手に伝えたいことを見付け出させる。)	ひょうたんを見て思ったことや感じたことを言葉にしよう。 ・おもしろい形。 ・どこかの駅で見たことがある。 ・おばあちゃんの家にあるよ。	児童がひょうたんを見て思ったことや感じたことについて、発言させる。	【関心・意欲・態度】 自分の思いや感じたことを言葉で表そうとしている。 [観察、ワークシート]
展開		自分が直接見たことや聞いたこと、おいをかいたこと、味わったこと、触って感じたことなどの中で、相手に伝えたいことを見付け出す。 ・ひょうたんって みたい。 ・ざらざらしてるのとつるつるしているのがある。 ・押してもがっしりしている。 ・持ったら重たいよ。 ・細かい毛が生えているよ。	諸感覚を使って、相手に伝えたいことを見付け出させる。 言葉が見付からない児童には身近な言葉から連想させる。	
まとめ	思考する力・ 判断する力 (どんな言葉を使えばより相手に伝わるかを考えさせる。)	ひょうたんに対する自分の思いや感じたことを、どんな言葉を使えば相手に伝わりやすいかを考えながら、言葉に表す。 ・比喩法(ひょうたんって みたいの比喩) ・詩で表す形式 ・五七五の形式	どんな言葉や表現方法を選ぶと、自分の思いが相手に伝わりやすいかを考えさせる。	【書く力】 自分が相手に伝えたいと思ったことを、自分の言葉で表し、書いている。 [観察、ワークシート]

点線内が予想される児童の発言等

（４）本時の学習評価

【国語への関心・意欲・態度】

学習活動における具体的評価規準	自分の思いや感じたことを言葉で表そうとしている。
「十分満足できる」状況（A）と判断した具体的状況例	諸感覚を使って感じたことや、自分の思いを何通りもの言葉で表そうとしている。
「努力を要する」状況（C）と評価した児童への手だて	ひょうたんを叩かせ、どんな音がするのかを確認させる。また、ひょうたんのにおいをかがせ、感じたことを言葉にさせる。

【書く能力】

学習活動における具体的評価規準	自分が相手に伝えたいと思ったことを、自分の言葉で表し、書いている。
「十分満足できる」状況（A）と判断した具体的状況例	自分の感じたことや思いを、相手に伝わりやすい表現方法を使って、自分の言葉で書いている。
「努力を要する」状況（C）と評価した児童への手だて	「みたい」の比喩的な表現をさせる。また、見たり・触ったりして感じたことを書かせたりする。

ワークシート

すてきなこぼれをみつけよう（ひょうたん）

一ねん
なまえ
くみ

☆ひょうたんをかんじてみよう
◎ひょうたんにからかんじたことをかこう
（さわってみて、におい・もつてみて、たたいてみて）


○めてみたら

○さわってみたら

○においをかいでみたら

○もつてみたら

○たたいてみたら




ワークシート

◎ひょうたんでかんじたことをともだちにつたえよう
（どんなこぼれでつたえよう）

一ねん
なまえ
くみ


ひょうたんを

みたら



ひょうたんを

みたら



ひょうたんを

みたら

